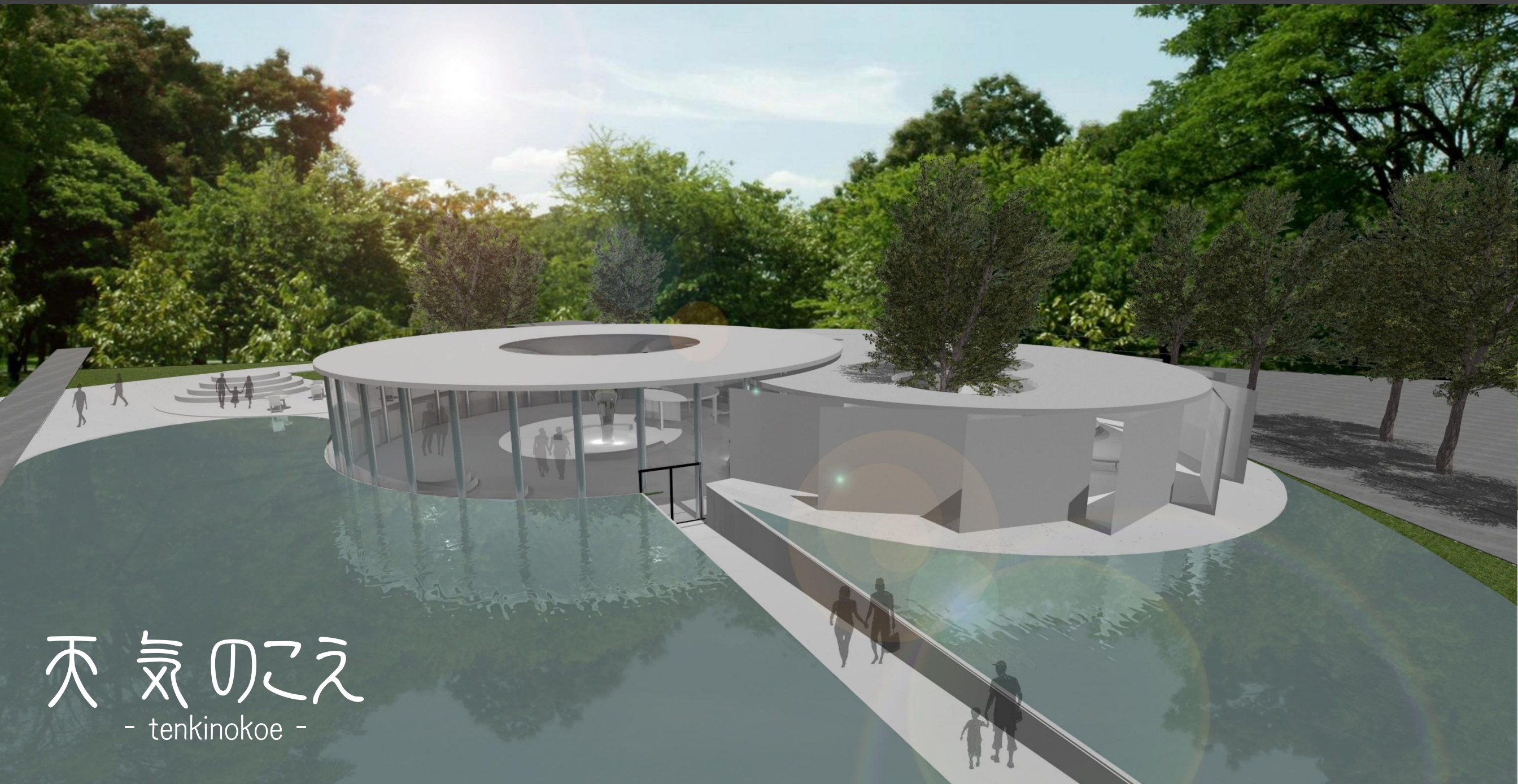




天気のこえ

- tenkinokoe -

Concept

-コンセプト-

天気×自然×五感

環境問題

敷地調査で歩いているとき見た木漏れ日
きらくやまふれあいの丘で自然の中で刺激された好奇心
日常の空への魅力・絶景の感動



五感で感情が動いたり、行動が生まれる。
→新たなコミュニティの誕生



筑波山頂上からの景色



雨上がりの虹



日常の中の夕焼け

天気別の見え方

曇り

晴れ

つくばみらいに昔から存在する水害
工業団地・住宅開拓による森林伐採
交通量増加による大気汚染
近年問題となっている気候変動



天気や自然の美しさや過酷さを再確認し、
環境問題への意識転換

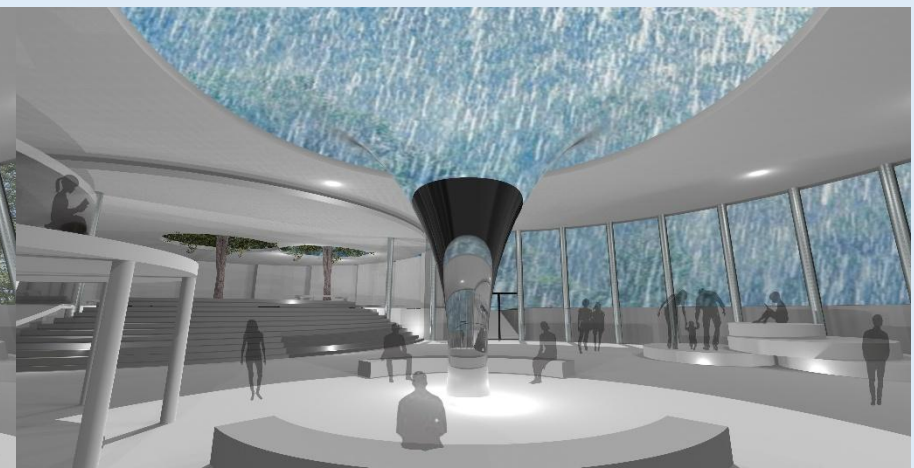


敷地から見上げた空



公園から見た田園風景

雨

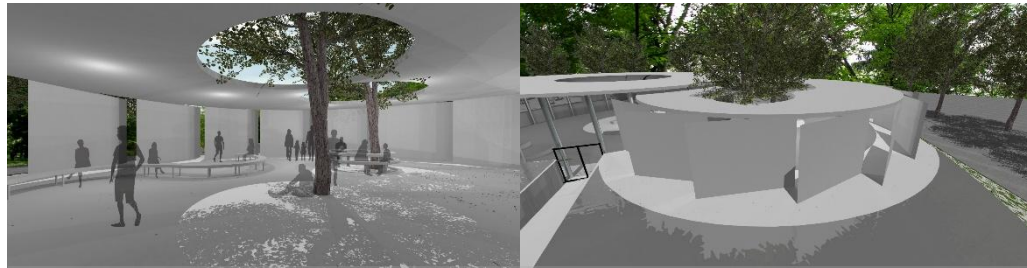


Architectural overview

-建築概要-

災害時の防災拠点として

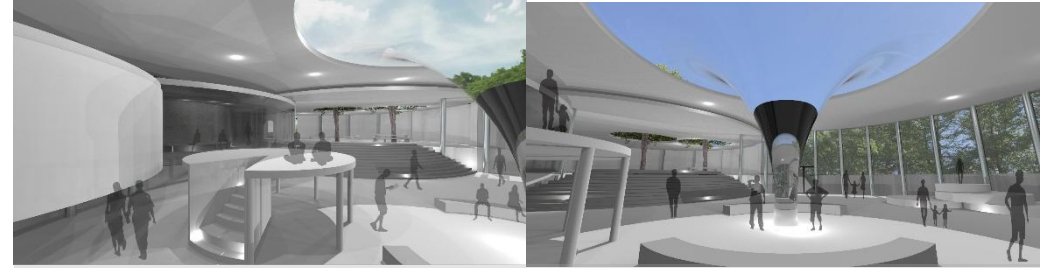
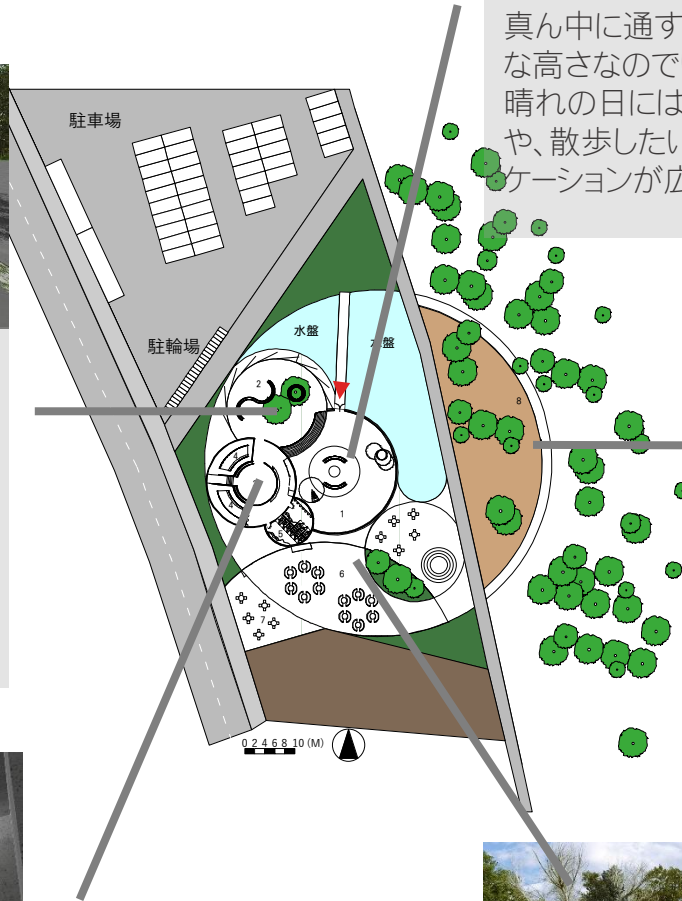
ガラス張りの空間は、採光が多く、電気がなくても室内で明るく過ごせる。設備として、非常用電源、給水設備、地下倉庫、マンホールトイレなどを備えるものとする。
目に見えづらいものにし、建物の雰囲気は壊さずに災害時に役立つ。



外壁や窓がなく半屋外空間になっている。
同じ方向に向いたルーバーのような壁から雨の匂いや植物の匂いが入ってくる。
雨の日には、降り始めた特有の匂いや、雨に濡れたアスファルトの匂いを感じることで落ち着いた雰囲気を演出し、一人時間を楽しんだり、作業が捗ったりする。そこから、仕事のコミュニティが広がったり、趣味（読書、音楽鑑賞、編み物、自然鑑賞…）を行える空間が広がる。



天井の穴から外の音が入ってくる。この空間だけ、コンクリートにすることで音を響きやすくする。空間の中に空間を作り、音の振動を多くする。
風の声、雨の音、木々が揺れる音などがこの空間内に響き、心地よい空間になる。そこから自然の音に紛れ、会話が生まれたり、その音の正体を探すために外に出ようという気持ちになる。



真ん中に通す透明な柱は、日を差し込んだり、雨を滴らせる。半地下のような高さなのでいつもとは違う視覚で過ごせる。
晴れの日には、差し込んだ光や風に揺れる木々を見て、話したいという感情や、散歩したいという明るい前向きな気持ちに駆られる。そこからコミュニケーションが広がったり行動範囲が広がり、コミュニティが誕生する。



敷地と周辺の森の共存を表す遊歩道。森の中を歩くことで、自然・天気そのものを感じることができる。施設を使用しなくても、散歩コースとしても使用できる。



暑さや寒さを感じ、食欲が刺激されこのテラスで飲食をする。(週末に来るキッチンカーや持参したもの) 飲食のほかにも外で気持ちの良い気温を感じたり、風を感じたり、雨を感じながら好きなように過ごすこともできる。地下テラスは1200下がっているので自然と目線を合わせながら過ごせる。重なっている床の下は地面に座って過ごすことができる。